

優良実践校取組概要(令和2年度:小学校2校・中学校1校)

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組内容等
	真庭市立 中和小学校	木田 訓祥 (きだ くによし)	24	<p>「中和いきいき学習」を核にした開かれた学校づくり</p> <p>へき地複式校で少人数のため、自分を高めたり、子ども同士が切磋琢磨する機会が少ないことや、地域への関心が希薄で、これからの地域を担う主体となる意識が育っていないことが課題であった。</p> <p>このため、地域と子どもが共に育み合う探究学習「中和いきいき学習」として、低学年は「地域の探検」、中学年は「地域の取材」、高学年は「地域のプロデュース」に取り組むなど、主体的な学びを実践した。また、学校運営協議会を導入し地域に情報発信することで、開かれた学校づくりを推進するとともに、保護者と連携した生活習慣・学習習慣の定着を促進した。</p> <p>こうした取組の結果、児童が地域の良さを学び、地域のために何ができるかを考え動く意識が育まれるとともに、学習意欲や表現力の向上等、学習の深まりに繋がった。また、保護者や地域の方と連携して学校教育活動を行う体制を構築した。</p>
	浅口市立 寄島小学校	安田 隆人 (やすだ たかひと)	170	<p>寄島学園コミュニティ・スクールと連動した学校経営戦略</p> <p>児童生徒数の減少や地域とのつながりが不足し、人間関係が固定化する中で、自己肯定感や規範意識の低下が見られることが課題であった。また、全国学力・学習状況調査の結果から、基礎基本の徹底や学習習慣の定着を図る必要がある。</p> <p>このため、学校運営協議会での熟議を経て共育目標を立て、「学びづくり」「心と体づくり」「絆づくり」「ワークスタイル」の4つのプロジェクトチームにおいて具体的な計画や達成基準の設定と毎月の進行管理を行うなど、教職員の学校経営への参画意識を高め、地域・学校を挙げて課題解決に取り組む体制を構築した。</p> <p>こうした取組の結果、学校の組織力・教員の指導力の向上が図られ、長期欠席児童の減少や生活習慣・学習習慣の改善につながっている。</p>
	西粟倉村立 西粟倉中学校	松本 健 (まつもと たけし)	43	<p>国連の持続可能な開発目標(SDGs)の視点を取り入れた教育活動による、学びの質の向上</p> <p>少人数のため、生徒の人間関係が固定され、自らの考えを发表或し、他者と意見交換することが苦手な生徒が多いことが課題であった。</p> <p>このため、学習内容と関連するSDGsの目標を生徒が考え、互いに対話する時間を取り入れるなど、主体的・対話的で深い学びに繋がる機会を創出したり、生徒会活動とSDGsを関連付け、身近な活動機会を設けることで、生徒の個々の良さや持ち味を発揮できる場を創出した。また、内閣府からSDGs未来都市に選定されている村の地域性を生かし、企業と連携した森林体験学習を行うことで、地域産業の体験を通してSDGsへの理解を深めるとともに、自分の考えを發表させる活動に取り組んだ。</p> <p>こうした取組の結果、生徒会活動に対する積極性や他者の意見を尊重し取り入れる意識の向上が図られるとともに、学力状況についても改善が見られた。</p>